

予備合宿 波頭 伸哉

僕がこれから書こうとしているのは1980年夏の予備合宿のことである。僕がこの合宿についてなぜ書くかというところ、おそらく僕が他の部員にかけた迷惑が多かったからだと思う。僕にとってこの合宿ほどつらかった旅行はなかった。では、1日目から僕の思ったことを書いてみたいと思う。

2泊3日の予備合宿は7月14・15・16日にかけて行なわれたが、梅雨は開けたとは、いえ雨まじりの合宿となってしまった。僕は、予備合宿が行なわれるまでは、1泊2日のツーリングに数回行ったことがあるだけだった。そのせいか出発前日は、準備や用意で大変だった。まず自転車だが僕の自転車は完全なランドナーだったのでキャニピングキャリアやサイドバックがついていなかった。そこで、僕は近くの自転車屋に行って買ったのだが、自分の自転車にキャリアをつけるのに今更取って時間がかかってしまった。何とか準備できた時は本当に助かったと思った。その自転車にシュラフとか共同装備など

の全ての備品を入れて感じたことは、
なんと重い自転車ということである。
次の日の朝の輸行で全ての荷物が輸行
袋に入るかどうか心配だった。

オ1日目。目覚まし時計を、4時にしておいたの
ので何とか朝早く起きる事ができた。さあ今日から合宿だと思
って心地よく起きたのだが外を見てがっくり、
小雨が降っているのである。まあたい
したことがなかったのによかったが。
輸行に手間どるのではないかと思われた
ので家を少し早目に出発し近くの鶴見
駅に向かった。また朝が早いせいか駅
は空いており輸行を見物してくれる(?)人
もいなかった。何とか1時間弱で輸行して、
京浜東北線で上野駅へ行こうとした。し
かしここで手荷物キップを買ってなかった事
に気がつき急いで駅長室でもらった。し
かし何と輸行袋の重い事か。肩にくい込む
様な重さであった。何とか無事上野駅に着
き、予定より本前の急行に乗る事ができ
た。前の予備予備うをさぼってしまったの
でこの日は、少し早目の列車に乗った。上野
駅に来ると、他の年の部員の姿は見えな
いが、2,3年の先輩の姿が目に入った。

列車の中では先輩達に合宿の事について聞いたりしたが、2日目の峠がすごいという事だった。そうこうしているうちに、出発地点である万座麓天口に到着した。ここで再び自走車を組み合げて残りの人達が来るのを待った。この間先について先輩達は今日これから登る峠への道を地図で確かめていた。何だかんだしているうちに全員が集まり、いざ出発となった。先ずその日の夕食と次の日の朝の朝食の買い出しであった。1日目は、キャンプでは、ややマイナーなカレーライスである。カレーライスに必要な肉、野菜そして米、また翌日に必要なパン、バターそしてのりたまなどである。これらの買物に必要な費用は、各自が1000円ずつ集められるのであった。そして購入した物は、各自に公平に分配され、目的地まで運ぶのであった。さあこれからが本当の出発である。今日は、2日目程きつい坂でないにして、相当な登りである事は確かである。出発してみて感じた事は、部員全員が1かたまりになって走るというのではなく部員各自がそれぞれのペースで走るということであった。当然僕は最後の方でひたすらイナローでペダルをゆくり回し

ていた。あ、後ろから面田さんが来た。ぬかされたら目眩ずかしいんだぞと心にいい聞かせた。しかし足が動いてくれないのである。あ〜あついにぬかされた。それにしても面田さんの脚力には、この合宿中おどがさればなしであった。あ、今度は、後ろから、名取さんだ。名取さんをはじめ2,3年の先輩達は、藝伎する/年生のスリーパーであった。名取さんは僕が落ぬしないように目を光らしているのもであった。あ、でももうだめ足をついてしまおうと思った。しかしここで休めば、後が続かなくなる。あ、変速機の調子が狂ったぞ。ガッガッ、ガッ、あ〜あチェーンがはずれちゃった。しかし僕はこれ幸わいにと自転車から降り直し始め、ほんの少しの休憩をとった。しかしこの後は、乗っては降り、乗っては降りの繰り返しであった。お前方にすごい急な坂、これは、押せろと思ってしまう。これがいけなかった。この後、乗るのと押すのが半々値になってしまった。あ、あそこ、みんなが休んでいる。あそこまでは乗らなくさ。と思う事が何度もあった。そうこうしているうちに、なんとか今日の目的地すなわち野営地に着いた。まあそれにしても遅れたとはいえ、さほど岩に迷惑をかけないですんだのでほっとした。しかし足はすごい筋肉痛だし体力も

えほどあるわけではないので2日目の車坂峠
までの登りや女神湖までの道が心配であ
った。川村は、この日で帰ることになってい
るので、僕は、少しうやまいと思った。そ
うこうしているうちに、カレー
ライスができあがり、部員全員が一つの
輪になって食べ始めた。しかし何と酒井
さんのすごい食べ方なのだ。ここで各
自テントを決め、夜は、各テントで大
食民をやって寝た。ドーム型テントに
寝たかったな。

オ2日目。朝のすがすがしい気分と、冷
んやりとした空気が、僕の心を洗って
くれた。なんちゃって?! 朝食で僕が
ビックリしたのは、のりたまをつけた
パンがこのクラブの伝統となっている
ことである。信じられない?。かくして
2日目の日程が始まった。キャンプ場
が峠にあつたのでこれから下りが始
まるのかと思っていたが、実は、地道
の登りであった。僕の自転車は、ギヤ
比が高かつたためか地道は、全く棄
れなかつた。また地道を登っている
途中から雨が降り出し、最悪の状態
となった。なんと皆に遅れること15
分位で頂上の車坂峠についた。雨が降
ってきて、気温が下がり、足がツリ
せうになってしまった。しかし頂上
からは、待望の下り(アップダウン)
となった。しかしこの下りは、すご
かつた。なによりすごいハルン
クラブで道幅も狭く、おまけに道
の所々に穴が

あいているのだ。あ、前方にすごいカーブ、バンカーみたいな穴があいているぞ。しかしそう思った瞬間に、何が何だかわからなくなった。実はそうなんです。バンカーにタイヤをとられて転倒してしまっただけです。体はけがをすし、自転車のバテプは切れるし大変でした。しかしまあ何とか無事、峠を下り、けがもたいしたことでもなかったから助かった。さてこれからいよいよこれからの本当の登りが始まるのである。町で今日の夕食の釜飯の材料を買い出発である。しばらくゆるくりしたペースで走っていると、前方に坂が見えてきた。またここでは旧目の様に各自がそれぞれのペースで走っていた。この坂は、だらだらとした長い坂で、インターでは、なかなか進まないし、本当にまいった。そうこうしているうちに霧が出てきはじめ、気温が下がり、足がづてしまった。しょうがない押すことにはうと思つた。霧のせいで前にも後にも、他の部員を見ることができなかつた。一人で孤独になりながらひたすら自転車を押した。あ、前に、三ツ井さんだ。あ、乗ろうと思つたが足が動いてくれなかつた。あ、後ろが自転車のライトだ。誰か2人乗っているようだ。だんだん近づいて来た。副島と葉山さんだ。ぬかされてしまった。ついに最後になってしまった。それにしても苦しい。あ、車が来る。車で行きたい。もう放心状態になってしまった。1km, 2km. どうに

か進んでいるようだ。あ、峠の標識だ。や、た登りが終わった。あとは、女神湖までの下りであった。あ、あ、この信号の所に宮崎さんと兵衛だ。何、また信号からキャンプ場まで登りだ。また押ししかないうえ思った。もう足が棒に変わってしまった。や、と今日の日程が終わった。キャンプ場に到着し、僕はテントの中に入らざるを得なかった。食事の用意をせずに本当に皆に迷惑をかけてしまって、どうもすみませんでした。食事をしたのは、もう空がま黒になっている時でした。でもあの日の星空は、一生心に残る程、美しかったなあ。明日もまたビーナスラインの登りがあると思うと、とたんに心が重くなってしまった。

オ、オ、オ、オ、今日。今日は、いよいよ合宿の最終日。2日目と同様、朝食を取り、出発となった。さて、ここで上級生が何やら話しているようだ。どうやら、ビーナスラインを回るか、直接下るか、悩んでいるらしい。僕としては、絶対に直接下りたかった。しかし結論は出ず、取り合えず、白華湖まで下ることになった。この下りは、なかなかダウンヒルが楽しめた。皆快よく下っている時に、三浦が転倒したようだ。手の中に石が入るらしく、医者に見せる必要があったので、直接下ることになった。ほー。僕は内心よかたと思った。そして、またダウンヒルになった。しかし今度は、バスが行手

をふえいで、思うようにスピードが出せなかった。
おかげで誰も事故らなかつたが…。峠を下
った所で田があつたので、三浦のけがを見せ
る間大休止となつた。しばらくして三浦が戻
つてきて、茅野駅までいそいで下つた。ここで、軽
い打ち上げを行ない、この予備合宿は、終わり
となつた。

無事家にたどり着き、その日は、まる一日、
寝てしまつた。

おわり